

【第3部】

社会教育における人権学習の進め方



学習形態について

ワークショップ(体験的参加型学習)

ワークショップとは、皆で意見交換や共同作業を行いながら進める体験的参加型学習を指します。指導する側、される側の関係で学ぶ研修会でなく、参加者が積極的に他者の意見や発想から、“気づき”、“学び合い”、最後に自らの“ふりかえり”をするという研修のプロセスで学び、参加者が体験的に参加することで、自ら納得し、態度・意欲が喚起され、行動につながる手法です。

ワークショップは、まず、簡単なゲームを通して参加者の心を開かせ（アイスブレイキング）、次に、テーマに迫るための活動（アクティビティ）、最後に、学習のまとめと反省（ふりかえり）という一連の流れで行います。アクティビティでは、パネルディスカッションやブレインストーミング、KJ法などの学習手法を使って行います。（次頁以降に詳しく説明してあります。）

ワークショップでは、進行や促進役を務めるファシリテーターが学習を進めますが、次の点に留意して進めることが大切です。

【留意点】

- ☆ 和やかな雰囲気づくりに努め、いろいろな考え方を認める。
- ☆ 参加者の主体性を尊重し、問題の解決に当たっては参加者の意見を尊重する。
- ☆ 話し合いの過程を大切に、マイナス意見であっても、貴重な話題提供として受け止める。
(ただし、偏見や差別意識を助長するような発言に対しては、話し合いの中で修正していく。)
- ☆ 参加者同士の対立的な状況が起きたり、参加者のプライバシーが侵害されたりしないように、事前に参加者の構成や実態などに十分配慮する。
- ☆ 自分と違う立場の意見を尊重し、否定しない、など、参加型学習の約束について参加者と共通理解する。

アイスブレイキング

・簡単なゲームを通して参加者の心を開かせる。

- ・じゃんけんゲーム
- ・自己紹介
- ・グループ作り
- ・学習中の約束 など

単に雰囲気を和らげるだけでなく、ゲームをしながら自己紹介やグループ作りなどを行い、主活動（アクティビティ）へのつながりを考慮に入れて行うことが大切です。

アクティビティ

・テーマに迫るための活動を行う。

- ・パネルディスカッション
- ・ビデオフォーラム
- ・ブレインストーミング
- ・KJ法 など

様々な学習手法を組み合わせ活動します。

ファシリテーター（進行・促進役）の進行で、テーマの内容を深めたり、広げたりしながら学習します。

※ 学習手法は次頁以降参照

ふりかえり

- ・学習全体のまとめと反省を行う。
- ・気になる発言がなかったか確認する。

学習のねらいに沿ったまとめを行うとともに、今後の活動への意欲付けを行う。

人権上で気になる発言等は無かったか、参加者全員で確認することも大切です。

アクティビティで使われる学習手法

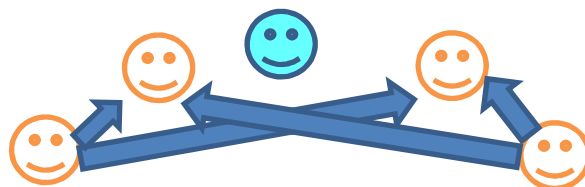
① パネルディスカッション

概要	ある特定のテーマ(課題)について、専門的知識を持っている人や、その問題について代表的意見を持っている人がパネラーとして登壇し、司会の進行に基づき意見発表や討議を行い、会場の参加者(フロアー)との意見交換・討議も行う。多人数の参加者が効果的に研修することができ、意見を発表することで研修の達成感を高めることができる。 人権に関する学習では、様々な人権問題に関して対立した意見も含めて現状を把握し、それに対する解決策を探ることなどに利用できる。また、シリーズの研修のまとめの段階で参加者からパネラーを選出して実施することにより、研修全体の総括として位置付けることもできる。
進め方	① 準備 パネラーの選出 ② 討議 1 各パネラーの主たる意見の発表 2 各パネラー間の討議 3 各パネラーの補足意見発表 4 フロアーとの意見交換 5 司会のまとめ
留意点	司会、パネラーの事前の打ち合わせ時間を十分にとり、参加者間の意見の基本的な方向を相互理解した上で進めると討議の方向性がフロアーに伝わり、フロアー全体を含めた討議となることができる。 司会が柔軟にパネラーの討議に参加したり、フロアーに代わって質問したりすることも効果的である。

① パネラーの主意見の発表



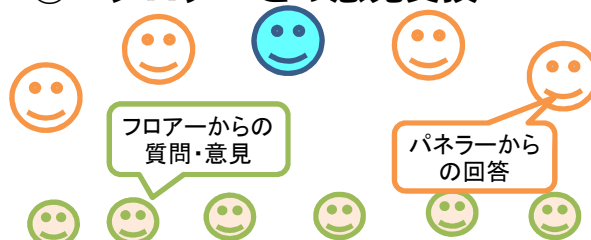
② 各パネラー間の討議



③ 各パネラーの補足意見発表



④ フロアーとの意見交換



⑤ 司会のまとめ

② ビデオフォーラム

概要	研修の課題をテーマとした映画やVTR等を参加者全体で視聴し、その後、司会者の司会のもとで参加者全体で討議等を行う。 討議等の方法は、バズセッション、パネルディスカッション等、研修の人数や位置づけなどで工夫する。討議に替えて講師によるレクチャーと質疑というような方法も考えられる。 人権に関する学習では、様々な人権問題の現状等を共感的に理解するために、映画等の教材は極めて有効なものである。参加者に感動を与えるとともに、問題の在り方を具体的にとらえて考えることができるため、多様な学習者が学習に取り組みやすい手法である。
進め方	① 導入 視聴の前に、課題に関しての事前の学習や、研修目的の説明を行う。 ② 視聴 当該フィルム等を上映する。 ③ 討議 上映内容について、討議を行う。 ④ 評価 討議の内容等について参加者の自己評価や講師によるまとめを行い、評価する。
留意点	研修のねらいや目的を明確にし、それに対応した教材を選定する。時間配分を考慮し、話し合いの時間が十分確保できるようにする。 討議は、できる限り少人数で設定するようにして、グループごとに助言者をつけるなどの工夫をする。

① ビデオを視聴する



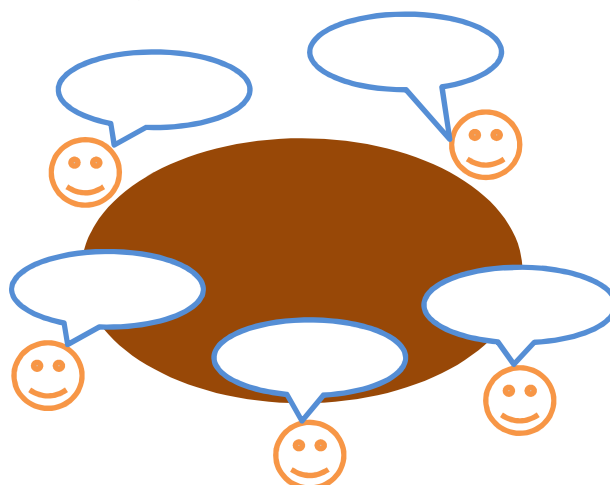
人権課題の解決に向けて
私たちは、どう行動すればよいのでしょうか



③

講師によるまとめ

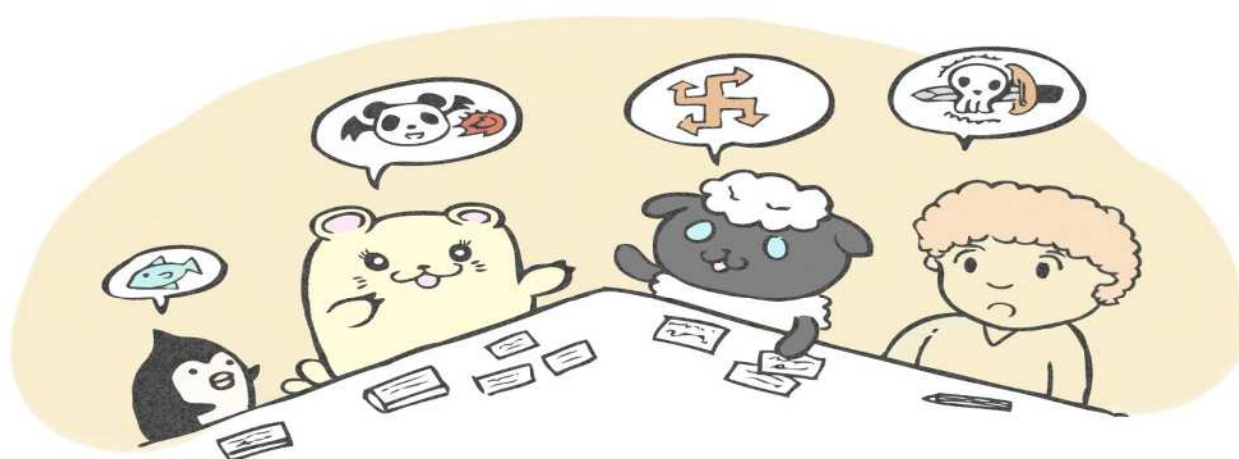
② ビデオを見た感想等を踏まえ、討議する



③ ブレインストーミング

概要	数多くある討議方法の中で、自由な発想で討議し、創造的に問題解決を目指す代表的手法。特定の目標の実現のためにアイデアを出し合ったり、様々な考え方ができる事柄についてグループとしての行動方針を設定したりする。その際、「他者の意見を正誤の判断をせずに受け入れる」「自由奔放なアイデアを奨励する」「どんな意見でも数多く出す」「他人のアイデアを活用したり組み合わせたりする」ことを原則として進める。5人～10人くらいでの討議が一般的だが、多人数の場合はグループ分けして実施することもできる。 人権に関する学習では、「様々な人権問題に関する具体的場面での行動の選択」「参加者が学習内容について希望を集約する場合」「自由・平等・優しさ等の抽象的言葉を具体的に話し合うことで人権を身近なものとして考える場合」等で活用できる。
進め方	① 導 入 ブレインストーミングの意義と目的の説明・進め方の説明 ② 問題提起 司会が討議するテーマについて投げかける。 ③ 討 議 司会の進行により討議を進める。記録者が参加者にわかるように黒板に記録する。グループの場合、カードに記録することも可。 ④ 評 価 出た意見を並べたり、並べ替えたり、組み合わせたりして新しい情報としてまとめたり、アイデアとして提示したりする。
留意点	全体で実施する場合は、発言しない人が出ないように司会が配慮する。グループで実施する場合は、グループの人数や発言の状況に指導者が留意して助言することも考えられる。

ブレインストーミング



みんなで自由にアイデアを出し合うこと
 あなatarashii自由気ままなアイデアを言おう
 人のアイデアに便乗しよう。質より量。

④ K J 法

概要	参加者全てのどのような意見も大切に扱われ、集団で創造的に問題解決が図られる点に特徴がある。 収集した膨大なデータを整理するためにカードを使って一枚の図に収め、全体を見ながら討議する。収集したデータが全て生かされて、全体図の中で“自己主張”していることで、思わぬ発想につながる。 情報をカード化して整理するので、参加者の全ての意見を集約できるし、カードの匿名性から自由な発想や本音の意見を引き出すこともできる。 人権に関する学習では、様々な人権問題に関して対立した意見も含めて現状を把握し、それに対する解決策を探ることなどに利用できる。
進め方	① 導 入 使用する物品(カード、サインペン、クリップ、模造紙等)の準備、趣旨・実施方法の説明 ② カード作成 参加者全員がテーマに基づきカードを作成する。 ③ グループング 作成されたカードを全員で類似した意見にグループングする。 ④ 表札づくり グループングしたものに見出し(表札)をつける。 ⑤ 図 解 グループングしたカードを模造紙等に張り付け、グループ間の関係を明確にしていく。 ⑥ 評 価 全体について意見交換し、討議の成果をまとめる。
留意点	カード作成が中途半端になると全体の集約につながらないので、カード作成の参加者の責任を理解してもらい実施する。グループングで参加者の考えが尊重されるように配慮する。



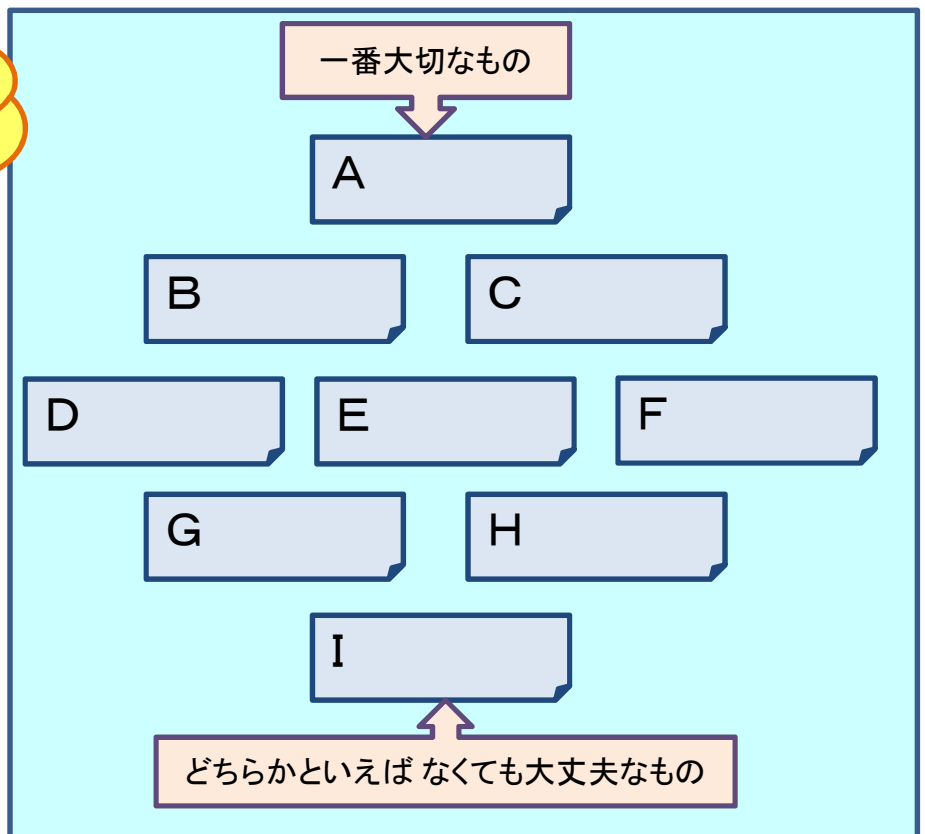
⑤ ダイヤモンド ランキング

概要	様々なテーマについて、10個前後の権利・命題、具体的物品名等をカード等に記入し、参加者が自分にとって重要と考える順序にダイヤモンド型にランキング(順位付け)して、その根拠等を整理し、参加者相互が意見交換・討議を実施する。 討議のプロセスでは一つの結果を導き出すということではなく、他者の考えを理解するとともに、コンセンサスを得ることに関する能力をトレーニングする観点で実施する。 人権に関する学習では、様々な人権問題に関する事柄を自分の問題と関係させて考えることができるので、自分自身の人権や権利に対する考え方を整理することができる。 一番に何をもちてくるのがいいのかを討議するのではなく、なぜその人がそれを一番にしたのか、その背景を聴くことで、価値観の違いを理解し、その人の考え方に寄り添ってみる大切です。 また、ランクをつけなければならないため、どれも大切なのに、項目によっては低い位置に置かなければなりません。その苦しさを感じることで、それぞれの項目の大切さを再認識することもできます。
進め方	① 導 入 実施するランキングの内容と目的の説明・進め方の説明 ② 展 開 1 カードの配布と参加者によるランキングの実施 2 ランキングの結果について参加者を小グループに分けて話し合いを実施する。 3 話し合いの後に自己のランキングの修正をしたり、各自の結果を研修会場に掲示して相互の理解を深めることもできる。 ③ 評 価 講師による評価や参加者相互の評価を実施する。
留意点	他者との比較にのみ注意が向いてしまうことがないように留意する。自分の考えを大切にするとともに、他者の考えを受け入れられるという観点で実施する。 様々なプログラムと組み合わせて実施すると効果的である。

「大切なものリスト」を
右のダイヤモンド型の
ランキングに位置付け
て、話し合います。

大切なものリスト例

- ① 自分自身
- ② 健康
- ③ 友達
- ④ 親もしくは子ども
- ⑤ 仕事
- ⑥ お金
- ⑦ 地位・名誉・肩書き
- ⑧ 趣味・遊び
- ⑨ 近隣の人



学習展開例

人権一般（差別・偏見・・・人を差別しない子どもを育てる保護者の在り方）

1 学習のねらい

どこの生まれであるか、どこに住んでいるかということだけで差別されている現状があることについて知り、差別や偏見、同和問題（部落差別）をなくしていくために親がすべきことを考える。

2 学習の進め方（「気付く・考える」段階の詳細は次頁にあります。）

段階・時間	進め方	留意点（■） 準備等（□）
あたためる （10）	1 学習のねらいの確認と雰囲気づくり (1) 学習のねらいの説明 ① ワークシートにある「振り返ってみましょう」をやってみましょう。時間は1分間です。 ② 「？：わからない」の回答がありましたか。自信をもって回答できない部分があった方もいたかもしれませんが、子どもに対し、「人を差別しない人になってほしい」というのは、皆さんの願いだと思います。今日は『差別や偏見をしない子どもに育てていくために、親は、どのようにしていけばよいか。』ということについて、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。 (2) アイスブレイキング ① 自分の名前とは全く違う名前（ゲームネーム）を決め、カードに大きく記入してください。 ② 自由に歩き回り、出会った人と挨拶をして、自分の名前を紹介し合ひましょう。時間は2分です。 ③ 今度は、互いに握手をして自己紹介をしましょう。時間は2分です。 ④ 近くの席に着き、4人で感想を話し合ひましょう。	□グループづくり（4人程度） □ワークシート ■同和問題がなくなるというのは、同和問題を取り上げるから→× ■いじめられる（差別される）側にも原因がある→× □『』内を板書または掲示する □サインペン □ネームカード（A6程度） ■参加者が少ない場合は時間を短く設定する。
気付く・考える （40）	2 アクティビティ（活動） (1) ワーク1 ■個人→全体 「差別」疑似体験を通して、感じたことを話し合う。 (2) ワーク2 ■個人→グループ 県民意識調査結果から、部落差別について考える。 (3) ワーク3 ■個人→グループ→全体 エピソードを読み、職業差別について考える。	■ゲーム後のフォローで心の安全を守る。 □県民意識調査 ■スクリーン等で提示してもよい。 ※次頁参照
まとめる・広げる （10）	3 学習の振り返りとまとめ (1) 学習を通しての新しい気付きや感想を発表する。 [例] 新たに気付いたこと、家庭で話題にしたいこと 等 (2) 学習全体を通じたまとめ 子どもの差別や偏見に気付いたときは、毅然とした態度で愛情をもって親の気持ちを伝えるとともに、自分の態度で示していくことが大切である。そのためには、常に新しく正しい情報を得て、親自身の人権感覚をみがいていくための繰り返しの学習が大切である。 ※ 江口いとの詩「人の値打ち」を紹介する。	■個人→全体 ■発表は希望者のみとする。 ■最初に記入した「振り返ってみましょう」の選択が、学習前と振り返り時とで変わったところがないか確認する。

3 「気付く・考える」段階の進め方と留意点

進め方（ ☐ 投げかけ）	留意点（ ☒ ） 準備等（ ☐ ）
ワーク1 「差別」疑似体験を通して、感じたことを話し合う。 ① では、～～～の方に、〔例1〕今、このグループにお座りになっていらっしゃる方に、〔例2〕椅子に、赤色のテープが貼ってある方に、）リボンをプレゼントしますので、リボンが他の方に見えるように、体のどこかに結びつけてください。 ② これから、自由に動き回って、また自己紹介ゲームをしていただきますが、もっとお互いのことを知っていただくために、今度は、握手＋名前＋α（自分のこと何でも30秒程度で）とします。 ③ ただし、リボンを付けた方とは自己紹介せずに（つまり無視して）ゲームを進めてください。「差別」を疑似体験していただきます。リボンの方は、何をするんだろうと、ワクワクされていたかもしれませんが、「体験」ということで、御理解のほどよろしくお願いします。時間は3分です。 ※ 自己紹介ゲームを通して、「差別」を疑似体験する。 ④ はい、時間です。御協力ありがとうございました。御自分の席にお戻りください。ワークシートに、感想を書き、その後、グループで感想を話し合ってください。 ⑤ どんな感想が出たか、皆さんに紹介してください。 【予想される反応】 ・無視されて悲しかった。・ゲームと分かっていたけど腹立たしかった。 ・リボンを隠したかった。・無視する方もつらい。・時間が長く感じた。 ※ 感想等をもとに、差別は、する方も、される方も、いやな気持ちになるということを、全体で確認する。	■全体の4分の1程度の方に、リボンをつける。 □〔例1〕リボンをプレゼントするグループを決めておく。 □〔例2〕椅子の背や裏に印を付けておく。 ■ゲームの前後でフォローし、心の安全を守る。 ■感想を共感的に受け止める。 ■感想が出ない場合は、グループの話し合いの観察により進行役から紹介し、感想を共有する。
ワーク2 令和5年度県民意識調査結果から、部落差別について考える。 ① 次に、この県民意識調査の結果をご覧ください。（問20、問21）（調査及びその結果について状況を説明する） ② 結果を見て、考えたことをワークシートに書いてみましょう。 ③ それでは、グループでこれらの差別意識が「なくなるのはなぜか」、「どうすればなくなるか」について話し合ってみましょう。 ※ 資料（問17）で、最初のきっかけは「家族」が18.8%もあることに注目し、子どもたちに正しく伝えていくためには、繰り返しの学びで確認することが大切であることを知らせる。 ※ ワークシートで、「寝た子を起こすな」の考え方について説明する。	□別紙県民意識調査を配布する。 □スクリーン等で示してもよい。 ■③は、調査の問いに対する自分の考えを書いてもよい。 ■資料（問24）も紹介する。
ワーク3 エピソードを読み、職業差別について考える。 ① この後、あなたはお子さんに、どう語りかけますか？ ② もし、保護者が、「そうだね、しっかり勉強すれば、エアコンのきいた所で仕事ができ、日曜日だって、ちゃんとお休みになるよ。」と言ったとすると、「ぼく」がどんなことを思うか、考えて書いてみましょう。 ③ 書いたことをもとに、グループで考えましょう。 ④ グループでどんな意見が出たか、紹介してください。 ※ 親の何気ない差別意識が、子どもにも影響することを確認する。 ※ ワークシートの「差別をしない偏見をもたない子に育てるために」を読み、参加者からの意見も交えながら親がすべきことを確認する。	□もう一つのエピソードをスクリーン等で示してもよい。 ■グループでの話し合いの後、全体で発表することを先に伝える。

差別のない豊かな未来の子どもたちのために

振り返ってみましょう（○：はい ×：いいえ ?：わからない）

- ☐ 差別されたことがある（○・×・?）
- ☐ 差別したことはない（○・×・?）
- ☐ 人に対する偏見はない（○・×・?）
- ☐ 同和問題について知っている（○・×・?）
- ☐ 同和問題は、自分には関係がない（○・×・?）
- ☐ 同和問題がなくならないのは、同和問題を取り上げるからだと思う。（○・×・?）
- ☐ いじめられる（差別される）側にも問題があると思う（○・×・?）



ワーク1 自己紹介ゲーム通して、感じたことを書いてみましょう。

ワーク2 人権についての県民意識調査結果に対するあなたの考えを書いてみましょう。

そっとしておけば・・・???

「同和対策審議会答申」には、『寝た子をおこすな』式の考えで、同和問題はそのまま放置しておけば社会進化にともないいつとはなく解消すると主張することにも同意できない」と述べられています。「寝た子をおこすな」という考え方で差別の問題をそっとしておいても、私たちの正しい理解と認識は深まっていかないばかりか、かえって社会の誤った認識や偏見により差別心が強められることがあります。

また、現に差別で苦しんでいる人たちに対して、声を上げることが許さず、なおも、我慢を強いることになり、差別を温存・助長することにつながってしまうこともあります。

差別をなくしていくためには、同和問題をはじめとする様々な人権問題について正しい理解と認識を育むための教育が重要です。

エピソード

日曜日、家族で海水浴に行きました。空は青く、気温は 30 度を超えていました。途中、道路工事のため、車を止めて待ちました。車を誘導している人を見ながら、こんな話をしました。

保護者：暑い中、大変だね。太郎はこんな暑いところで働ける？

ぼく：ぼく、いやだ。

保護者：

ワーク3

この後、あなたはお子さんに、どう語りかけますか？

ワーク4

もし保護者が、「そうだね、しっかり勉強すれば、エアコンのきいた所で仕事ができる、日曜日だって、ちゃんとお休みになるよ。」と言ったとすると、「ぼく」がどんなことを思うか、考えて書いてみましょう。

ふりかえり

今日の学習を通して、どんなことを考えましたか。

差別をしない偏見をもたない子に育てるために

子どもが他人を差別し傷つけていることに気付いたときは、それが人間として恥ずかしい行いであることを教える責任があります。その際、「お前をそんな子に育てた覚えはない」「そんなことする子は嫌いだ」ではなく、子どもを愛していること、すてきな人に育ててほしいこと、人を差別したり傷つけたりするのを見てショックだったこと、人が傷つくのを見て笑ったり喜んだりしていることに怒りを感じたこと、二度としてほしくないこと、など親としての本当の気持ちを(“^{わたし} I ” メッセージ)で伝えましょう。

まず、親自身が偏見をもたず、差別をしない、許さないということを子どもに示していくことが大切です。

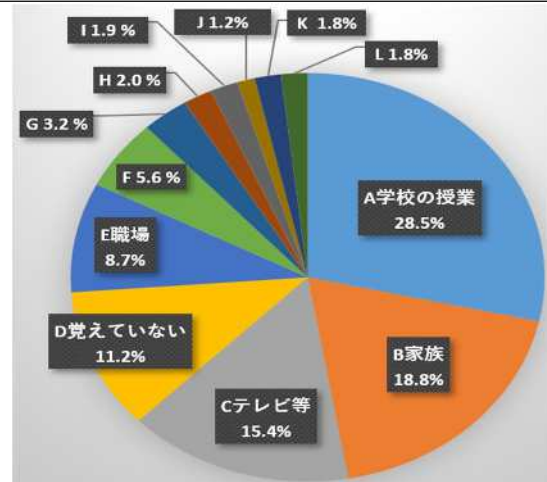
親自身が、人を傷つけていることにも気付かずに、笑ったり喜んだりしていることはないでしょうか。

家庭教育手帳<乳幼児編><小学生(低～中学年)> <小学生(高学年)～中学生> (文部科学

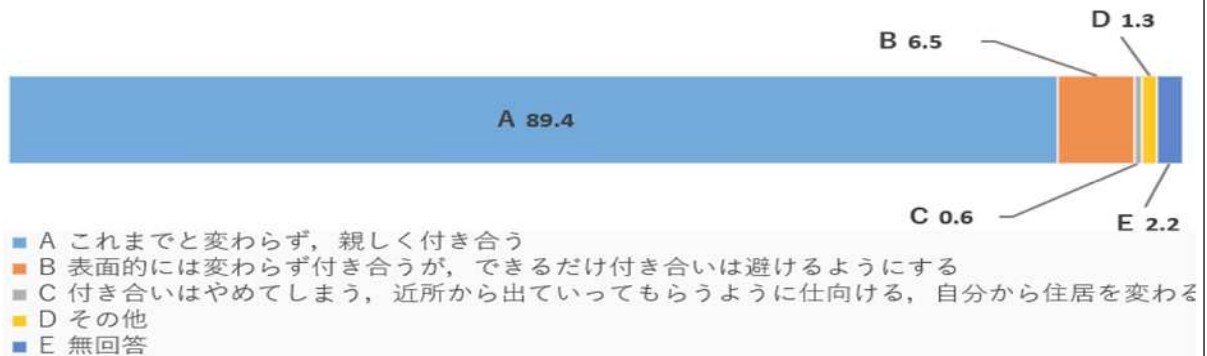
令和5年度人権についての県民意識調査報告（令和5年3月 鹿児島県）から抜粋

問 17 あなたが、「同和問題（部落差別）」について、初めて聞いたり、知ったりしたきっかけは何ですか。

- A 学校の授業 B 家族
C テレビ、ラジオ、インターネットなど
D 覚えていない E 職場の人
F 集会や研修会 G 学校の友だち
H 近所の人 I 広報誌や冊子等
J 親戚の人 K その他
L 無回答



問 20 あなたの、とても親しい人が「同和問題（部落差別）」を受けている地区の出身あるいは、現在も住んでいるということがわかった場合、あなたはどのようにしますか。

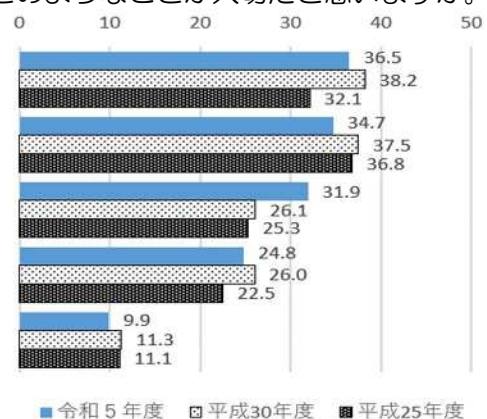


問 21 あなたのお子さんが結婚しようとする相手が、「同和問題（部落差別）」を受けている地区の出身あるいは、現在も住んでいるとわかった場合、あなたはどのようにしますか。



問 24 「同和問題（部落差別）」を解決するには、どのようなことが大切だと思いますか。（複数回答上位5位）

- 行政において、県民が同和問題（部落差別）を正しく理解し、人権の大切さが認識できるような啓発活動を積極的に行う
県民自らが、同和問題（部落差別）を正しく理解し、差別をしないよう人権意識を高める努力をする
学校における同和問題（部落差別）をはじめとする人権教育を充実する
家庭においても、親（大人）が同和問題（部落差別）を正しく学び、子供に伝えていく
同和問題（部落差別）は、そっとしておけば、自然になくなる



人の値うち

何時か もんぺをはいて
バスに乗ったら
隣座席の人は私を
おばはんと呼んだ

戦時中よくはいたこの活動的なものを
どうやらこの人は年寄りの
着物と思っているらしい

よそ行きの着物に羽織を着て
汽車に乗ったら
人は私を奥さんと呼んだ
どうやら人の値うちは
着物で決まるらしい

講演がある

何々大学の先生だと言えは
内容が悪くとも

人々は耳をすませて聴き
良かったと言う

どうやら人の値うちは
肩書きで決まるらしい

名も無い人の講演には
人々はそわそわして帰りを急ぐ
どうやら人の値うちは
学歴で決まるらしい

立派な家の娘さんが
部落にお嫁に来る

でも生まれた子供はやっぱり
部落の子だと言われる
どうやら人の値うちは
生まれた所によって決まるらしい

人々はいつの日
このあやまちに気付くであろうか

江口いと人権の詩「人の値うち」より



同和問題（結婚差別・インターネット等による人権侵害）

1 学習のねらい

令和5年度人権についての県民意識調査結果から、同和問題に関する人権問題として多くの県民が認識している「結婚問題で周囲の反対を受けること」について、ビデオ視聴を通して考え、当事者意識をもってその解決に努める意欲を高める。

2 学習の進め方（「気付く・考える」段階の詳細は次頁にあります。）

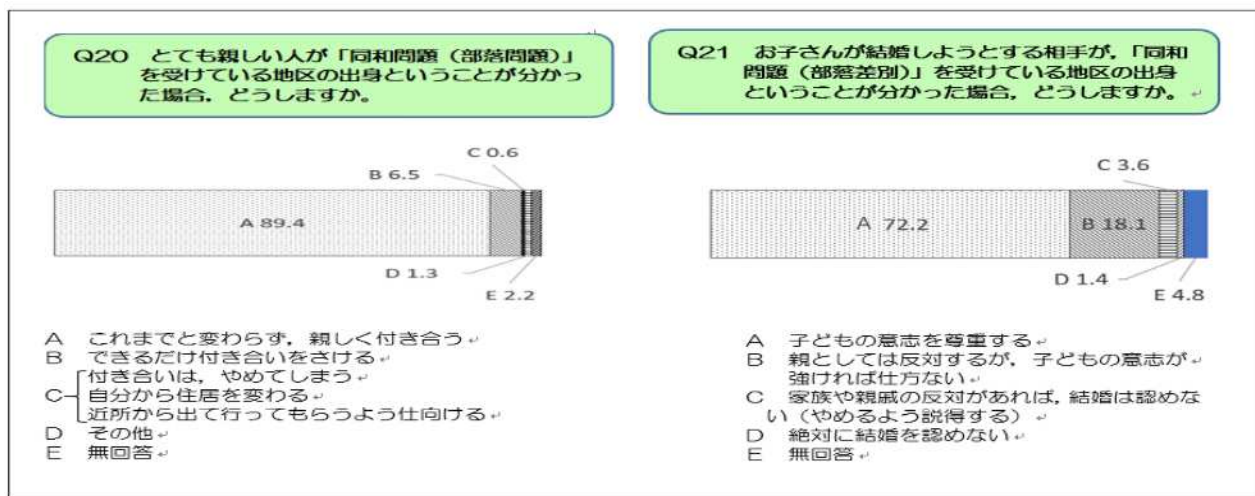
段階・時間	進め方	留意点（■） 準備等（□）
あたためる （10）	1 学習のねらいの確認と雰囲気づくり （1）学習のねらいの説明 現代における同和問題について、ビデオ視聴を通して考える。 （2）アイスブレーキング、グループ作り ○ 後出しじゃんけんゲームで雰囲気づくり ※ ①あいこ（同じもの）、②勝つもの、③負けるもの ○ 同じチラシの一部を持っている人同士でグループ作り ※ チラシの右上部分を持っていた人が司会、左下部分を持っていた人が記録など、役割分担をする。 （3）学習中の約束 ○ 正しいとか間違いとかはない、どんどん発言しよう！ ○ 他の人の発言を否定しない！ ○ 人権上気になることは、その場で解決、持ち帰らない！	□チラシ ※グループ数のチラシを、グループ毎の人数に切り分けたもの ■資料と一緒に配布しておく。
気付く・考える （65）	2 ビデオフォーラム （1）ワーク1 ○ R5県民意識調査Q20、Q21の結果について話し合う。 ・ 個人で考える→グループで交流 （2）ワーク2 ○ 人権啓発ビデオ『「あなたに伝えたいこと」インターネット時代における同和問題』を視聴して、話し合う。 ・ ビデオを視聴する。 ・ 心に残ったこと、心に響いたことばについて話し合う。 （3）ワーク3 ○ 同和問題の解決に向けて、どんなことが大切か話し合う。 ・ 個人で考える。 ・ グループで話し合う。 ・ 全体で発表する。（グループで出た意見を紹介する）	□ワークシート ■県民意識調査結果を示すことで、当事者意識を高める。 □DVD □DVDプレイヤー □プロジェクター □スクリーン
まとめる・広げる （15）	3 学習の振り返りとまとめ （1）学習を通しての新しい気付きや感想の発表（参加者） ○ 次の視点で感想を発表させる。 ・ 学習を通しての新しい気付きや感想 ・ 学習の前後での同和問題に対する意識の変化 （2）学習全体を通したまとめ（ファシリテーター） ○ テーマに関するまとめ ・ 同和問題の解決のためには、「正しく知る」ことが大切であること ○ 参加者の学習への参加状況についての賞賛 ・ 積極的な話し合いへの参加 ・ 人の話をしっかり聞く態度、互いの人権の尊重 ○ 今後への期待 ・ 学習の成果を今後の生き方に生かす ・ 周囲の人への波及	■できるだけ参加者の発表を生かしてまとめることで実践意欲を高める。 ■人権上気になる発言がなかったか確認し、あった場合は訂正し確認し合う。

3 「気付く・考える」段階の進め方と留意点

進め方（ 投げかけ）	留意点
ワーク1 ○ R5県民意識調査Q20、Q21の結果について話し合う。 (1) 各自で考える。【2分間】 ワークシートの2つのグラフは、令和5年度人権についての県民意識調査結果です。 2つの結果を見て、気付いたこと・思ったことをワークシートに書いてください。 【予想される反応】 ・「親しい人」「結婚相手」という場面の違いによって、Aの割合が違う。 ・Q21のAの割合が、Q20のAより少ない。 (2) 全体で話し合う。【3分間】 それぞれが思ったことをグループ内で交流してください。	■各活動の時間を明確に伝えてから活動に入るようにする。 ■「親しい人との付き合い」と「わが子の結婚相手」という場面の違いにより、望ましい回答の割合が変化していることに気付かせたい。
ワーク2 ○ 人権啓発ビデオ「『あなたに伝えたいこと』インターネット時代における同和問題」を視聴して、話し合う。 (1) 各自心に残ったこと、心に響いたことをワークシートに記入する。【視聴36分、感想記入2分】 これから同和問題（結婚問題、インターネットによる人権侵害）をテーマにしたビデオを観ていただきます。視聴した後、心に残ったことや心に響いたことばなどについて話し合ってください。観ている間にメモをとりながら御覧になっても構いません。 それでは、始めます。 (2) グループ内で考えを交流する。【5分間】 書かれたことをもとに、グループ内で交流してください。	■視聴後の活動について予告してから視聴させる。 ■視聴後、2分間程度、個人の感想をまとめる時間をとる。 ■交流することで、考えを広げさせる。
ワーク3 ○ 同和問題の解決に向けて、どのようなことが大切か話し合う。 (1) 個人で考える。【2分間】 ビデオ視聴の感想を含め、同和問題の解決に向けて、どのようなことが大切か、考えを書いてみてください。 【予想される反応】 ・うわさに惑わされないように、正しく知ることが大切。 ・身の回りの差別に気付き、自分自身の問題として主体的に関わっていきたい。 (2) グループで話し合う。【8分間】 それでは、グループ内で考えを交流してみましょう。 (3) 全体で発表する。【5分間】 グループで話し合われたことを発表してもらいます。 まず、Aグループお願いします。次に・・・	■「私たちはどう行動するか」という視点で考え、交流させる。

ワークシート

ワーク1 人権についての県民意識調査結果（R5）について話し合う。



☆ 上の2つの結果を見て思ったこと

ワーク2 ビデオを視聴した感想を話し合う。

☆ 資料名：「あなたに伝えたいこと」～インターネット時代における同和問題～

【内容あらまし】

同和問題は、地域改善対策の結果、生活環境などハード面の改善は進んだが、結婚差別や身元調査など、意識の面では依然として課題が残されている。また、インターネットには、利便性ととともに、差別的な書き込みやネット依存など陰の部分もある。

この物語の主人公は、結婚話を発端に、恋人や友人、家族などとの関わりから、同和問題が身近な問題であることを知る。ネット上の情報に左右されることなく人とふれあい、お互いを正しく知ることが、同和問題やすべての差別をなくしていくために重要であることを、明るい希望とともに伝える。

☆ ビデオを視聴して心に残ったことや心に響いた言葉

ワーク3 同和問題の解決に向けてどのようなことが大切か考える。

同和問題に関するDVD一覧

資料番号	タイトル	DVDの概要	人権課題	時間
186	同和問題と人権	同和問題とは、いったいどのような問題なのか、どうしてこのような問題が存在し、なぜなくならないのか。同和問題を正しく理解し、同和問題を解決するためにはどうすればよいのか、この映像作品を見ながら、一緒に考えてみませんか。	同和問題	28分
204	私の中の差別意識	部落差別問題を通し、人の中に巣食う差別意識への気付きを促していきます。 あからさまな部落差別は影を潜めましたが、まだまだ結婚差別や就職差別などは残っているのが現状です。この作品では、ドキュメンタリーを通し、差別された人々の心の痛みを伝えつつ、どうすれば差別がなくなるのか考えるきっかけを提供します。そして、自らの差別意識に気付き、正しい知識や判断力をもつことの大切さを伝えます。	同和問題	24分
205,211	人権のヒント(地域編)	人権と言うと、なんだか難しいものだと考えがちですが、私たちの日常生活の色々な場面に「人権のヒント」は隠されています。この作品はドラマの手法を使って、日常に潜む人権問題を「地域」としての視点から切り取っています。自分の中の人権意識を考えるためのきっかけにさせていただくことをねらい、制作されました。	総論	25分
212	人の世に熱と光を	【部落の心を伝えたいシリーズ】 21世紀の人権文化の思想的原点である『水平社宣言』。その精神を清原隆宣氏は、ズバリ「水平のものさし」の見直しという。人は何故、平等になれないのか。人は何故、尊敬し合えないのか。西光万吉の系譜を引く清原隆宣氏を通して、『水平社宣言』の核心を描いた画期的ノンフィクション。	同和問題	26分
216,223,224	今、地域社会と職場の人権は！	この作品は、「高齢者の問題」「子育てする女性の問題」「バワハラ・セクハラの問題」「同和問題」に焦点をあて、研修が行いやすい4部構成になっています。 【第4章 同和問題、差別のない明るい社会を！】 未だ根強く残る同和問題。なぜ無くならないのか？ 一人ひとりの心の問題を問う作品です。	高齢者 女性 同和問題	36分
217	差別意識の解消に向けて 第1巻人権のまちづくり	今日の部落差別は、「同和地区の土地に対する忌避意識」がその根底にあります。地区内外の人たちが、生活現場で協働して差別意識の解消に向けて取り組んでいる「人権のまちづくり」を通して、差別や偏見の解消に取り組む人々の思いを伝えます。	同和問題	29分
230,231	ほんとの空	高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題、これらに共通する根っここの部分は、誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」である。 誰もが他者の排除や差別がよくないことは理解している。その一方で、自分や身近な人に関わる出来事には敏感に反応するが、それ以外のことは他人事のように感じたりする。また、自分や家族の生活を守るために、あるいは誤解や偏見に気付かず、他者を排除したり傷つけたりしがちである。 誤解や偏見に気付く人と深く向き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うこと。すべての人権課題を自分に関わることとしてとらえ、日常の行動につなげていくようにと訴える。	高齢者 外国人 同和問題 原発事故に伴う風評被害等	36分
243	東山文化を支えた「差別された人々」	世界遺産である銀閣寺や龍安寺の庭園などをつくったのは、実は差別されていた人々であったという歴史事実は、被差別の人たちのマイナスイメージを逆転させました。東山文化を支えた人々の様子を丁寧に描きます。	同和問題	16分
244	江戸時代の身分制度と差別された人々	最新の研究成果を反映させ、中世に始まったすべての身分が、居住地や税制、戸籍などで固定され、江戸時代に「制度化」されたことを新しい図式を提示して分かりやすく解説するとともに、それを乗り越えて生きた人々の姿を明らかにしました。	同和問題	15分
245	あなたに伝えたいこと	この作品のテーマは「インターネット時代における同和問題」です。同和問題の解決を図るため、30年以上にわたって地域改善対策が行われてきました。その結果、生活環境などハードの面の改善は進みましたが、結婚差別や身元調査など、意識の面では依然として課題が残っています。また、時代の経過とともに、同和問題についての正しい理解を得る機会が少なくなっています。 そんな中、この作品は同和問題を正面から取り上げ、この問題が決して他人事ではないこと、正しく知ることが同和問題をはじめとする人権問題の解決につながることを描きます。	インターネット 同和問題	36分
246,256	イマジネーション 想う つながる 一歩ふみだす	舞台は小さなラジオ局で、様々な人が番組を聞きながら心を通わせ明日へとつながる。 一歩を見つけていく あなたはimagination できますか？ 子供の人権-いじめ問題-、同和問題・障害者の人権-発達障害-	子ども 同和問題 障害者	34分
249,250	同和問題 (1)過去からの証言、未来への提言 (2)未来に向けて	この教材は、我が国固有の人権問題である同和問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等の様々な団体における人権教育・啓発に携わる職員等が身に付けておくべき同和問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を中心に分かりやすく簡潔にまとめています。また、一般市民を対象とした、啓発現場においても使用できる有効なツールとしての映像も併せて制作し、同和問題の解決のために次世代へ伝承することを目的としています。	同和問題	(1)61分 (2)19分
292	許すな「えせ同和行為」 ～あなたの会社を 不当な要求から守ろう～	「えせ同和行為」とは、同和問題を口実にして、企業・個人や官公署などに不当な利益や義務のないことを求める行為を指します。えせ同和行為は、同和問題に関する誤った認識を植え付け、偏見や差別を助長する要因となっており、同和問題の解決を阻害するものです。本DVDでは、えせ同和行為をはじめとする不当要求行為の主な事例をドラマ形式で具体的に紹介し、その心構えと対策を分かりやすく紹介しています。	同和問題	36分
311	今そこにいる人と、しっかり出会う —同和問題—	同和問題は我が国固有の人権問題であり、日本の長い歴史の発展の中で形作られた身分差別によって、形成されたものです。生まれた場所や住んでいる場所だけで偏見をもたれ、差別されるという理不尽な差別といえます。今、現代社会でも様々な差別の問題が起こっています。本作品では、同和問題について理解を深めていただくと同時に、同和問題をモチーフに、人と人がしっかり出会い、差別とどう向き合っていくかについてのヒントになる作品となるように構成しました。ドラマ形式で描いていますので、登場人物の気持ちに寄り添って視聴することができます。	同和問題	24分

※ 男女共同参画局人権同和对策課に保管しており、貸し出しできます。

<お問い合わせ>TEL099-286-2574

障害者の人権（障害者の手記をもとにした学習）

1 学習のねらい

障害のある人が日常生活の中で不利益を被り、自立と社会参加を阻まれている現状があり、私たちには、障害の有無に関わりなく、誰もが尊重し支え合う「共生社会」を実現することが求められている。

障害のある人の人権について正しく認識し理解を深め、誰もが暮らしやすい地域にするために、私たち一人一人ができることを考える。

2 学習の進め方（「気付く・考える」段階の詳細は次頁にあります。）

段階・時間	進め方	留意点（■） 準備等（□）
あたためる (10)	1 学習のねらいの確認と雰囲気づくり (1) 学習のねらいの説明 障害のある人の人権について正しく認識し理解を深め、誰もが暮らしやすい地域にするために、私たち一人一人ができることを考えよう。 (2) アイスブレイキング「パズルゲーム」 ① グループごとに、新聞紙を適当な大きさに10枚ほどに破ってください。 ② 違うグループと交換してください。 ③ では、パズルを組み立てます。できたグループは手を挙げてください。 ④ では、2回戦です。今、グループにあるパズルを更に破って、20枚ほどに細かくしてください。 ⑤ 違うグループと交換して、先ほどと同じようにパズルを組み立てます。	□グループづくり □新聞紙 ■いろいろな形の組合せで1つの完成形となる。障害の有無に関わらず、地域を構成する大切な一人である。障害があることは、特別なことではなく、個性としてとらえていきたい。との考え方をもちながら進行する。
気付く・考える (45)	2 アクティビティ（活動） (1) ワーク1 手記を読んで、感じたことや考えたことを話し合う。 (2) ワーク2 ・ 資料①をもとに、障害者の自立や社会参加を阻むバリア（障壁）について考える。 ・ 資料②・③をもとに、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、法令等について理解を深める。 (3) ワーク3 ・ ワーク1・2をもとに、誰もが暮らしやすい地域づくりのために、私たちができること、心がけていきたいことについて考える。	□ワークシート ■個人→全体 ■個人→グループ→全体 ■個人→全体
まとめる・広げる (5)	3 学習の振り返りとまとめ (1) 学習を通しての新しい気付きや感想の発表 今日の学習の感想を発表してもらいましょう。 今日の学習を通して、家族に伝えたいこと、一緒に考えたいことをワークシートに書いてみましょう。ぜひ、各家庭で話題にしてみましょう。 (2) 学習全体を通じたまとめ 障害のある人が暮らしやすい地域は、誰もが暮らしやすい地域です。ふれあいや語り合い、学び合いを通して、みんなが暮らしやすい地域づくりを進めましょう。	■挙手等により、発表してもよいという意味を確認の上発表してもらおう。 ■学習内容を家庭でも話題にし、障害者に対する人権問題について広く考えられるよう働きかける。

3 「気付く・考える」段階の進め方と留意点

進め方（ ☐ 投げかけ）	留意点（ ☒ ） 準備等（ ☐ ）
ワーク1 ○ 手記を読んで、感じたことや考えたことを話し合う。 ワークシートにある手記を読んで、感じたことや考えたことを話し合ひましょう。 【予想される反応】 ・お金を落とさない自販機であればいいのに。 ・障害がある人にとっては、ジュースを買うだけでもがんばらなければいけないのだなあ。 ・今の現状では、仕方がないことだ。 ・冷たい人が多い。助けてあげればいいのに。 ・私たちが、障害のある方の状況に気付くアンテナも必要だ。 ・障害がある人には、住みにくい社会だという現実がある。 ・「人はひとりでは生きられない。」障害のあるなしに関わらず、住みよい地域であって欲しい。 ワーク2 ○ 障害者の自立や社会参加を阻むバリア（障壁）について考える。 資料①のグラフをもとに、障害者の自立や社会参加を阻むバリア（障壁）について、考えましょう。 【予想される回答】 <地域・社会の環境として> ・歩道やバス等の乗降口の段差 ・狭い公衆トイレ ・スロープの未設置 ・点字ブロック上の障害物 ・自販機の硬貨投入口の高さ ・盲導犬等への理解不足 <人の心理・行動として> ・無関心 ・誤った理解 ・偏見 ○ バリアフリー、ユニバーサルデザイン、法令等についての話を聞く。	☐ ワークシート ■個人の感想として、自由に意見を記入し、全体ではじめの意見を共有する時間を設ける。 ■障害がある人にとって住みやすい社会は、障害のない人にとっても住みやすい社会であるという視点をもって進行する。 ■資料①のグラフを説明し、バリア（障壁）を考える際の視点として、Ⅰ 地域・社会の環境、Ⅱ 人の心理・行動の2点を示す。 ■個人で考えた後、グループで意見を交流し、グループごとに発表させる。 ■ノーマライゼーションの考え方については、必ず説明する。 ■障害の有無に関わらず、全ての人が、その人らしく生きることのできる社会にしていけることが、障害者の人権を考える上で重要であることを説明する。
ワーク3 ○ 誰もが暮らしやすい地域づくりのために、私たちがができること、心がけていきたいことについて考える。 ワーク1・2をもとに、誰もが暮らしやすい地域にするために、私たち一人一人ができること、心がけていきたいことについて考えましょう。 【予想される回答】 ・障害のある方へ積極的に声かけをしていきたい。 ・障害者の人権についてもっと深く学んでいきたい。 ・研修会等に参加して、障害や障害者の人権に対する制度や法令について学びたい。 ・多くの方々が参加できる地域での交流機会をもちたい。 ・多くの人とノーマライゼーションの考え方を共有していきたい。	

ワークシート

共に生きる社会を

ある夏の暑い日…

自動販売機でジュースを買おうとしたが、うまくお金を入れることができなくてお金を溝に落としてしまった

再度挑戦したけど、またしても溝に落としてしまった

暑くてのどはカラカラ…

自動販売機と格闘して、すでに十五分が経ち、二〇〇円も失っていた

再再度挑戦しようとしたとき、私の頭の中で、天使と悪魔がささやいた

天使は、「三度目の正直」がんばれ…

悪魔は、「二度あることは三度ある」無理、無理、あきらめろ

そのとき、第三の方法がひらめいた

私は、勇気を出して通りかかる人に声をかけた

案の定、無視されてしまった

それから四人目になって、その人が笑顔で手伝ってくれた

私は、渴いたのどをやっと潤すことができた

そのとき私は、こう考えた

自分で出来るようになることも大切だけど、努力しても出来ない事もあるのだから、困ったときに『自分の思いを言葉にして相手に伝えること』も大切だ

たくさんの人と出会い、いろんな話をし、自分の感性が磨かれていく…

人はひとりでは生きられないから“人”

みんながいる ありがとう

平成24年度「なくそう差別 築こう明るい社会」から引用

ワーク1

上の手記の作者は、生まれたときの影響で手が不自由なため、食事やパソコン、携帯電話の操作など生活の全てを足で行います。

この手記を読んで、感じたことや考えたこと等を書いてみましょう。

ワーク2

私たちの住む地域の環境や私たち自身の心理・行動の中にある，障害者の自立や社会参加を阻むバリア（障壁）にはどのようなものがあるでしょう。

「Ⅰ 地域・社会の環境」，「Ⅱ 人の心理・行動」の二つの観点で，身の回りを見直し，グループで話し合ってみましょう。

Ⅰ 地域・社会の環境	Ⅱ 人の心理・行動



ワーク3

障害のある人もない人も共に生きる地域づくりのため，地域で行っていることを挙げてみましょう。また，これから地域でできることや自分自身ができることは何だと思いますか？

現在地域で行っていること	これから地域で必要なこと 自分自身ができること



ワーク4

学習のまとめ（感じたこと，家族に伝えたいこと）

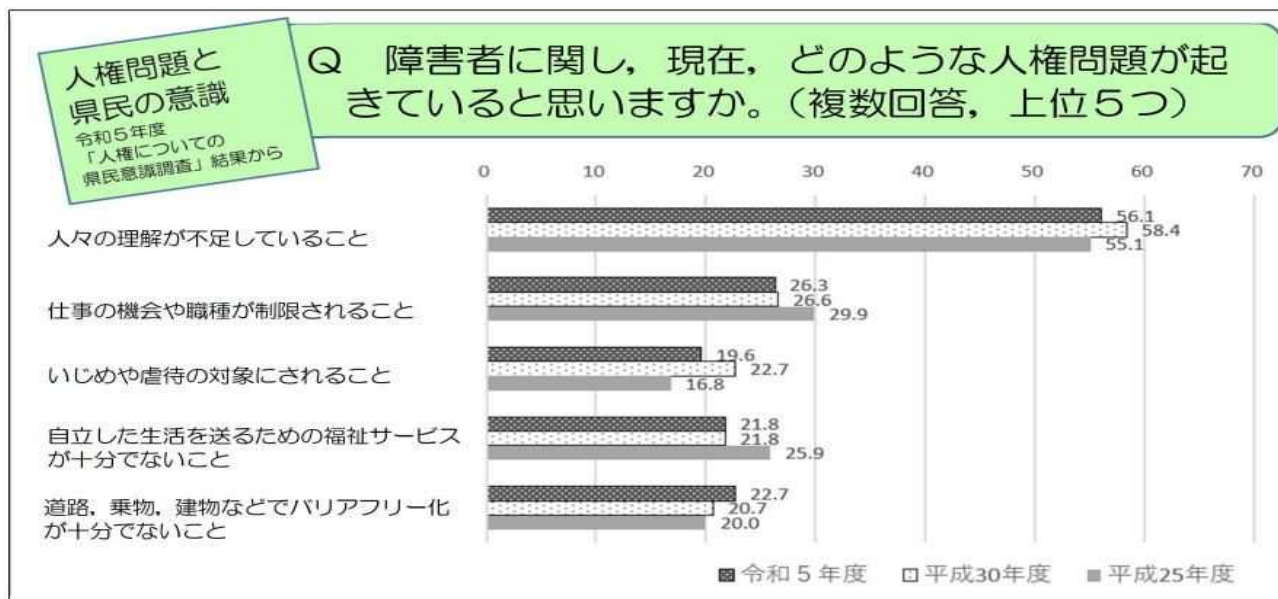
今日の学習を通して，家族に伝えたいこと等をまとめましょう。



学習資料

資料①

【人権問題と県民の意識：令和5年度人権についての県民意識調査結果の報告から】



資料②

【身の回りにあるバリアフリー・ユニバーサルデザイン，障害者に関するマーク】

- バリアフリー：すでにある障壁（バリア）を取り除くこと。
- ユニバーサルデザイン：全ての人が利用しやすい施設や製品等をデザインするという考え方。



多機能トイレ



シャンプー容器側面の刻み



ビール缶の点字表示



ユニバーサル自販機



点字ブロック



牛乳パックの切れ込み

■誰もが暮らしやすくするためのマーク



資料③【知っておきたい人権ワード】

■ノーマライゼーション

障害のあるなしに関わらず、みんなが同じように暮らせる地域社会であるという考え方。

■障害のある人もない人も共に生きる鹿児島づくり条例（平成26年10月1日）

障害を理由とする差別の解消を目的とし、障害を理由とする差別の禁止、障害を理由とする差別に関する相談員の設置等を定めている。

■障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）（平成28年4月1日）

障害のある人に対して、「不当な差別的取扱」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めている。そのことによって、障害のある人もない人も共に暮らせる社会を目指している。

■不当な差別的取扱い

行政機関等及び事業者が、障害者に対して、正当な理由なく、障害を理由として、財・サービスや各種機会の提供を拒否する又は提供に当たって場所・時間帯などを制限する、障害者でない者に対しては付さない条件を付けることなどにより、障害者の権利利益を侵害すること。

■合理的配慮

行政機関等及び事業者が、社会的障壁を取り除くために、申し出に応じて、過重な負担とならない範囲で提供しなければならない必要かつ合理的な配慮のこと。

■社会的障壁

生活を営む上で障壁（バリア）となるような、社会における事物・制度・概念その他一切のもの。

■鹿児島県人権尊重の社会づくり条例（令和4年3月11日）

人権施策を総合的に推進し、県、県民、事業者が連携を図りながら、全ての人の人権が尊重される社会の実現を目指すために制定された。主な内容は「差別のない社会づくりに向けた取組」、「人権施策の総合的な推進を図るための基本的計画の策定」、「『鹿児島県人権尊重の社会づくり審議会』の設置」である。

インターネットによる人権侵害

1 学習のねらい

インターネットは、誰でも容易に情報発信ができる便利なものだが、発信者の匿名性が高いため、他人を誹謗中傷したり差別を助長したりする書き込み等の人権侵害が増加し、社会的な問題となっている。

誰もが、加害者にも被害者にもなりうるインターネット上の人権侵害の実情を知り、気を付けるべきことを学ぶ。

2 学習の進め方（「気付く・考える」段階の詳細は次頁にあります。）

段階・時間	進め方	留意点（■） 準備等（□）
あたためる (5)	1 学習への方向付け (1) 画用紙等にかかれたスラング（俗語）を提示し、その意味を皆で推量しながら、学習内容への方向性をつける。 ・「あーね」（あーそうだよ。同意し、相槌を打つ） ・「K S」（既読スルー。ラインの受信を読んだのに返信なし） ・「disる」「ディスル」（批判する。悪く言う）	□カード「あーね」「K S」「disる」など ■カードを提示しながら、時間に応じてクイズ形式で楽しむ。
気付く・考える (45)	2 アクティビティ（活動） (1) ワーク1 インターネットのよさや問題点について話し合う。 ア インターネットのよさを考える。 イ 資料を基にインターネットの問題点について話し合う。 ウ 各グループで話し合ったことを全体の場で共有しながら問題点を整理し、どんな社会問題が起こっているか話し合う。 (2) ワーク2 ネット社会の特質から自分自身が心掛けることについて考える。 ア 人権侵害が起こりやすいネット社会の特質を考え、話し合う。 イ 自分自身が人権侵害を起こさないために、普段から心がけることを考える。	□ワークシート ■法務省HP資料等、学習者に適した資料を準備し提供すると効果的である。 ■インターネット上の匿名性を押さえ、問題の所在は、利用者の心にあることを理解させる。
まとめる・広げる (10)	3 学習の振り返りとまとめ (1) 学習を通しての新しい気付きや感想の発表 ア 気付きや感想をワークシートに記入する。 イ 全体の場で発表する。 (2) 学習全体を通じたまとめ 書き込みをするパソコンやスマートフォンは機器であるが、その向こう側にいるのは、血の通った人間である。 (3) 自宅に帰ったら、ワークシートにまとめた感想を家族にも話すよう提案する。	□ワークシート ■感想発表は希望者のみ行う。 ■家庭での学びに繋げる。

3 「気付く・考える」段階の進め方と留意点

進め方（ ☐ 投げかけ ）	留 意 点
ワーク1 ○ インターネットのよさや問題点について話し合う。 (1) インターネットのよさを話し合う。 パソコンやスマートフォンで行うインターネットにはどんなよさがありますか。 ・ 情報収集 ・ 世界中とのつながり ・ 勉強や楽しみ ・ 障害者の支援 ・ 不特定多数との交流、意見交換 など (2) これまでの経験をもとに、インターネットの問題点と人権侵害について話し合う。 ア 問題点を話し合う。(個→グループ) 新聞記事や自分自身の経験を基に、インターネットにはどんな問題点があると思いますか。グループ内で話し合ってみましょう。 【予想される反応(問題点)】 ・ 顔が見えない(情報発信の責任感の希薄化) ・ 情報の信ぴょう性、責任の所在が不明確 ・ アダルトサイトなどへのアクセス ・ コンピュータウイルスへの感染 ・ 個人情報の流出 など イ インターネットの問題点がどのような人権侵害につながるかを考える。(個→グループ→全体) インターネットの問題点から、具体的にどんな人権侵害につながるかを考えてみましょう。思いつくことをどんどん出し合ってみましょう。 【予想される反応(人権侵害)】 ・ いじめや仲間はずれ ・ 差別書き込み、名誉毀損 ・ 個人情報の無断掲載や転載 ・ 誹謗中傷、誤った情報の拡散 ・ リベンジポルノ	■ IT機器の負の面ばかりが強調されないよう、IT機器はわたしたちの生活を豊かにしてくれるツールであることを押さえる。 ■ 学習者に適した資料があれば、事前に準備しておく。 また、多様な事例が取り上げられるよう、複数の資料を準備しておくことが望ましい。 ■ ブレインストーミングの要領で話し合わせ、多くの考えを引き出す。 ■ これらのことはすべて人権侵害であることを押さえる。
ワーク2 ○ ネット社会の特質から自分自身が心掛けることについて考える。 自分自身が、インターネット上で起こる人権侵害の加害者や被害者にならないためには、どのような心掛けが大切でしょうか。 【予想される反応(心掛け)】 ・ 面と向かって言えないことは、ネット上に書き込まない。 ・ むやみに個人情報を掲載しない。 ・ インターネットの情報を無批判に信じ込まない。など	■ ネット社会は、匿名性が高いため(ばれないため)、無責任な書き込みが行われやすいこと、一旦ネット上に出了れた情報は、コピーや複製が繰り返され、完全に消し去ることは不可能であることを押さえた上で考えさせる。

ワークシート

《ワーク1》インターネットの「よさ」「問題点」について

インターネットのよさ

インターネットの問題点

インターネットの問題点がどんな人権侵害につながるのだろう？
(考えられることを，できるだけたくさん書き出しましょう)



《ワーク2》自分自身が被害者・加害者にならないためには？

学習のまとめ（感じたこと，家族に伝えたいこと）

今日の学習を通して，家族に話したいことをまとめましょう。

